２０１８年度　社会福祉法人あゆみの会　オープンスペース‘AYUMI’事業報告

（生活介護事業・就労継続支援事業B型・日中一時支援業・短期入所事業）

施設長　　久永　洋

【生活介護事業】利用者の状況

・新規利用者1名（特別支援学校卒業生）

・退所利用者3名（障害者支援施設へ入所1名、入院2名そのまま退所）

・3月現在契約利用者数：4１名

軽作業班

●利用者　17名（うち3名就労継続支援事業B型）　職員9名（非常勤職員含む）

受注内職作業を中心に、フロア1Fにて軽作業を主体に実施する。新規利用者（1名）に伴い、作業場所の明確化、絵カードコミュニケーションツールの活用等、理解コミュニケーションと表出コミュニケーションに力を入れる。感覚的なしんどさのある（視覚、聴覚）利用者へは、机や椅子の配置を変更したり、イヤーマフを着用したりと環境の調整を工夫しながら作業の提供を行う。また、特に音に対する過敏性や多人数への困難性を持っている利用者を対象として、個人ワークスペースを活用しながら、パーソナルスペースの確保、スケジュール等の管理、活動の見通しを持って安心して過ごせるよう環境の調整を図った。

様々な内職作業に取り組むことで、やりがいや達成感にも繋がり、利用者一人ひとりが自信を持って作業する姿があった。出来るだけ日中活動内容の選択制も取り入れ、自分で作業や活動を決められるよう、メンバーの気持ちを確認しながら日中活動を過ごした。

手工芸

●利用者　14名　職員6名（非常勤職員も含む）

紙漉きを中心に日中活動を進める。和紙商品やカレンダー作成をしながら、年度途中からは、新しい和紙商品（ギフトカード、封筒等）にも力を入れる。また、フェルトボール作製（受注作業）も取り入れ、作業の幅を広げながら利用者の達成感、やりがいに繋げていった。

職員の退職に伴い新人職員が多い中であったが、それぞれがアイデアを出しながら、新商品の開発や新人ならではの視点で、作業や活動を盛り上げた。日々の支援の中での悩み等は事業主任と連携を図りながら日々の支援の充実に努めた。

また、利用者の中には自分の思いや考えていることを話される人も多く、一つひとつを丁寧に受け止め、個々に対応することで本人の理解にもつながり、不安や混乱ができる限り少なくなるような関わりを心がけた。

園芸

●利用者　12名　職員7名（パートタイム勤務も含む）

畑作業や受注内職作業を中心に幅広く活動を実施する。職員の人事異動や夏場の異常気象（猛暑）により、園芸作業が十分に提供出来ないという課題もあったが、内職作業においても、それぞれ利用者がやりがいを持って取り組む姿があった。その中で、徐々に出来る作業も増えていき、自信や達成感に繋がっていった。少人数で、落ち着いた空間で過ごすことにより、より一層作業へ集中でき、仲間意識を育みながらコミュニケーションを図り、信頼関係を深めた。

また、男性利用者が多く、男性職員が少ない状況であったが、他班の男性職員と連携し、着替えやトイレ介助等の支援を行った。その中で、周りの職員のフォローや連携が密にとれるようになり、チーム連携を図った結果、日々の支援がスムーズにつなぐことができた。

【就労継続支援事業B型】

・新規利用者1名（なら障害者就業・生活支援センター コンパスより）

・退所利用者2名（1名　社会福祉法人大地 「花咲き苑」就労A型就職）

（1名　ゴルフ５ 奈良柏木店就職）

・3月末現在契約利用者数1４名

秋篠パン工房

●利用者　14名（うち3名軽作業班所属）　職員5名（パートタイム勤務も含む）

　利用者の減員、増員はなく、29年度に引き継いだ形でのスタートとなった。年度途中に、2名の利用者が一般就労され、利用者数が少ない状況ではあったが、パンの製造量を増やしながら、売り上げの向上を図る。また、利用者と一緒に販売、配達の機会を増やし、工房、喫茶以外での仕事を提供した。

作業活動においては、利用者が自分のポジションを意識しており、それぞれの持ち場で作業を行い、各々任された仕事に集中して取り組む姿が見られる。また、作業と休憩といったメリハリある活動の中で、集中して関わることができた。昨年より一層のスキルアップ、働く意識等が高められるよう支援し、「自分たちが頑張ってお客さんに来て頂く、美味しいパンを提供する」といったことを目標に日々の仕事へ取り組んだ。

　新商品開発等にも季節感に合わせながら、工夫を凝らし、ホテル、レストラン、幼稚園等の受注も継続しながら販売、配達業務に取り組んだ。

　また、一般就労された利用者も週1～2日の日中一時支援事業を利用しながら施設へ足を運び、本人、支援者、ふーぷ（相談支援）がチームとなり連携を図りつつ、就職者へのフォローアップを実施した。

【日中一時支援業】

主に一般就職者が利用する事業となり、イベントに参加したり、仕事のない日に来所したりと幅をもって実施した。慣れ親しんだ環境の中で仕事での悩みややりがいの話、また、久々に会う仲間とのふれあい等でリフレッシュし、頑張る活力に変えていった。

【短期入所事業】

　職員退職に伴い、宿泊職員の手配が厳しくなり、年度途中で一旦休止となる。（7月～10月）

職員へアンケート調査を実施し、短期入所事業の意向を図った。そのアンケート調査の中で事業の必要性は感じているものの、労働条件や日中職員の確保等課題もあり、勤務時間の変更等で対応し、11月より再開した。利用者自身は、料理や外食、仲間との宿泊を楽しみにしており、希望者も多かった。また、ご家庭の都合による緊急短期入所利用（冠婚葬祭等）についてもその都度相談の上、対応した。

【総評】

　各事業においても、生きがいややりがい、達成感等を持てるよう作業や活動の提供を行った。昨年度末の中堅職員退職に伴い、当初は難しさもあったが、だんだんと報告、連絡、相談の形も出来上がり、経験年数の差を職員間の連携でカバーする形を作った。班会議や事業会議の充実に努めながら、多面的に捉えていけるよう、意見交換しながら日々の支援の充実に繋げていった。

　地域交流においては、例年通り地域の学校の交流会や学生の職場体験を中心に風通しが良くなるよう心掛け、利用者も新しい出会いや経験、体験を喜んでいたように思う。

30年度もあゆみの会の理念やわたしたちのこころえを大切にしながら、支えあう仲間の関係を築き、日々の作業や活動、暮らしの充実に努めた。